

黒坂のまちを便利に! 賑やかに!!

黒坂野菜クラブ 会長 小林 実さん



「黒坂野菜クラブ」は、黒坂のまちを賑やかにしようと、令和3年4月に立ち上げられたグループです。毎週土曜日の朝、JA黒坂支所前で「九路坂(くるさか) 軽トラ朝市」を開催し、黒坂地区内外から来られる多くの方で賑わっています。

この朝市には、家庭菜園で野菜を作られている住民のみなさんや、小規模な農家の方々など、日野町にお住いの方なら誰でも、出店料1回100円で気軽に参加できます。

クラブの会長を務めているのが、小林実さん。日野町役場を退職後、長年米や野菜の栽培に携わってきたベテランの育子夫人と共に、農業に精力的に取り組んでいます。

育子夫人「ピーマンをメインに、白ネギ、トマト、キュウリ、キャベツ、ズッキーニ、インゲン、玉ねぎ、小豆、カボチャなど、いろいろな種類の野菜を栽培し、金持テラスひのなどにも出荷しています。」

実さん「黒坂は店舗が少ないですが、この軽トラ朝市で、住民のみなさんが買い物しやすくなればよいと願っています。」

この朝市には、野菜のほか、週替わりでカフェが出店し、コーヒーや甘味などを楽しむことができます。

黒坂野菜クラブは、住民の皆さんの利便性を高めると同時に、黒坂のまちの賑わいづくりに一役買っています。



土曜の朝は、黒坂に来て、朝どれ野菜を買って、由緒ある城下町を散策してみてください!!



「九路坂(くるさか)」とは:

江戸時代に書かれた文献の、「近隣の村と九つの坂道で繋がっている村を「九路坂」と名付け、後に「黒坂」となった」という逸話に基づき命名したそうです。



同日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

日野町における
「青パパイヤ」振興の取組

～ 特産化を目指したチャレンジが始まる ～



研究会のメンバー等

熟す前の果実を収穫する「青パパイヤ」は、炒め物やサラダ等の沖縄の郷土料理には、なくてはならない食材です。ビタミンCやポリフェノール、パパイン酵素等が豊富で、近年、健康食材として全国的に人気が高まっています。

日野町では、令和2年2月に「がんばる地域プラン」を策定し、農業の振興と地域の維持を目指した様々な取組が動き出していますが、この一環として、「青パパイヤ」の特産化への挑戦が始まりました。

今年4月には「奥ひの青パパイヤ研究会」(川北皓貴会長、会員6名)が結成され、育苗や栽培特性の把握等の中核を担い、日野町では、12カ所、約40アールで約500本の栽培が始まりました。そして、町内の主要な施設には「鉢植え」と「のぼり旗」が寄贈されるなど、全町に取組が拡大しています。

更に、倉吉農高や日野高校との連携も進むとともに、5月には久住試験ほ場の設置と定植セレモニー、7月には全栽培ほ場の巡回調査が行われました。

川北会長は「手探りの初挑戦であったが、実となる花芽もついてきた。しっかりと管理し、収穫、販売につなげていきたい。」と手応えを感じ、遠藤和也リーダーは「市場や地元飲食店等にも販路開拓の働きかけをしている。作るだけでなく加工や食べ方の可能性も探りたい。」と将来を見据えています。

10月に金持テラス等の店頭にも並ぶのが楽しみです。



日野振興センターへ鉢植えのパパイヤの寄贈 (6月7日)



巡回調査の様子 (7月28日)

同日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2026 FAX:0859-72-2090

とっとり森林・林業振興ビジョン ～10年後へ向けて～

本県では、木材生産・利用の促進と環境保全等の調和のとれた多様で健全な森林づくりを実現するため、令和12年までの10年間の新しいビジョンを作成しました。新たなビジョンでは3つのテーマごとに10年後の目標を設定しており、それらの目標達成を通じて、森林・林業が持続可能な開発目標(SDGs)や地球温暖化対策に貢献することも期待されています。



テーマⅠ 森林を育て未来につなぐ

10年後の目標

- ◆ 素材生産量
令和12年: 50万m³ (令和元年: 31万m³)
- ◆ 森林の二酸化炭素吸収量
令和12年: 88万tCO₂ (令和元年: 57万tCO₂)
- ◆ 県民参加の森林づくり活動参加人数
令和12年: 6千人 (令和元年: 5千人)



「とっとり共生の森」での企業の活動

〈 目標達成へ向けた取組 〉

- 1 森林の有する多様な機能の発揮
 - (1) 適切な間伐や皆伐再造林・広葉樹導入の推進
 - (2) 森林の若返りの促進 (苗木の安定供給、シカ対策等)
 - (3) 社会全体で支える森林づくり (とっとり共生の森、Jクレジット等の推進等)
- 2 持続可能な森林経営の確立
 - (1) 森林経営の集積・集約化 (新たな森林経営管理制度等の推進)
 - (2) スマート林業の推進 (レーザ航測データ、ドローンの活用)
 - (3) 低コスト林業の推進 (路網整備、高性能林業機械等の導入)
- 3 森林の適切な保全・管理
 - (1) 災害等に強い森林づくりの推進 (山地災害・ナラ枯れ等の対策)

テーマⅡ 森林を舞台に人を育てる

10年後の目標

- ◆ 新規就業者数
令和2～12年累計: 500人
新規就業者を毎年50人確保
- ◆ 森林環境教育・木育活動拠点数
令和12年: 16拠点 (令和元年: 5拠点)



← 即戦力人材を育成する「にちなん中国山地林業アカデミー」

〈 目標達成へ向けた取組 〉

- 1 担い手の育成確保
 - (1) 林業従事者の育成・確保 (即戦力人材、ICT技術者育成)
 - (2) 林業経営体の育成強化 (経営感覚に優れた経営体の育成)
- 2 働き方改革の推進
 - (1) 林業従事者の安全向上 (安全意識・安全衛生の更なる向上)
 - (2) 林業経営者の意識改革 (経営層の意識改革、働きがいのある職場づくりの推進)
- 3 森や木に親しむ機会の創出
 - (1) 森林環境教育・木育の推進 (指導者の育成、木育活動拠点の整備、啓発活動の推進)

テーマⅢ 森林の恵みを地域に活かす

10年後の目標

- ◆ 需要に占める県産材率
令和12年: 50% (令和元年: 31%)
- ◆ 主なきのこ生産額
令和12年: 20億円 (令和元年: 8.2億円)



← 県産材を使用した「LVL(単板積層材)」の利用例

〈 目標達成へ向けた取組 〉

- 1 県産材の利用促進
 - (1) 県産材の需要拡大 (非住宅建築物、CLT・LVL等の新たな木材利用の推進、健康志向に対応した住宅提案)
 - (2) 県産材製品の競争力強化 (乾燥・機械等級等JAS製品の体制強化等)
 - (3) 県産材の安定供給の推進 (ICTを活用した安定供給の推進、サプライチェーンの多角化・効率化等)
 - (4) 県産材の魅力発信 (木づかい運動の展開、県産製品のPR)
- 2 森林資源を活かした地域振興
 - (1) 特用林産物の生産振興 (原木しいたけブランド化等)
 - (2) 森林空間の総合的な利用 (観光や健康分野との連携した森林利用、都市部との交流推進)

さらに詳しく知りたい方は、インターネットで **とっとり森林ビジョン** **検索** と検索してください。

同日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2017 FAX:0859-72-2125